

みんなdeみんな

はたらく^{ひと}たち

産婦人科医

＜生殖(せいじく)医療専門医＞

妊娠(にんしん)や出産、女性特有の病気などを診察(しんさつ)します。生殖医療専門医はおもに不妊に悩(なや)むカップルの診療をします。



ART岡本ウーマンズクリニック院長
生殖医療専門医 岡本純英さん

医学博士。日本生殖医学会認定・生殖医療専門医・管理胚培養士(かんりはいばいようし)。鳥原市出身。岡本ウーマンズクリニックは不妊(ふにん)治療を専門に行っています。医師、看護師をはじめ胚培養士、生殖医療心理カウンセラーが一人丸となって不妊に悩むカップルをサポートしています。

所 長崎市江戸町7-1 ☎ 095-820-2864

赤ちゃんがほしいカップルをサポート
自分の体についてきちんと理解を

1 医師になろうと思ったきっかけは?

私の父は産婦人科医です。私も物心がつくころから「将来は医師になる」と思っていました。長崎大学の医学部に進み、医師になるための勉強をしました。医師にも内科医、外科医などいろいろあります。産婦人科医になろうと思ったのは、やはり父の影響(えいきょう)です。ある研究がきっかけで、体外受精に興味を持つようになりました。体外受精は赤ちゃんをなかなか授けられないカップルへの治療の1つ。もっと専門的に勉強したいと思い、オーストラリアのモナシュ大学に留学。進んだ技術におどろきましたね。この技術を日本に持ち帰りたいと熱心に勉強しました。長崎に戻(もどり)、大学で働いた後、1991年に長崎市に自分の病院を開きました。

2 生殖医療専門医の仕事とは

産婦人科は妊娠や出産、女性特有の病気などを診療します。私の病院ではおもに不妊治療を行っています。赤ちゃんがほしいカップルと話し合い、治療をすすめます。ケガや悪いところを治すこととは違(ちが)う難しさがあります。まず患者さんが2人。男性と女性のカップルで治療を受けてもらいます。患者さんと医師が力を合わせ、「無事に赤ちゃん誕生」という目標に向かって進んでいきます。患者さんは不安になったり、周囲の言葉に傷ついたりするなど、心の悩みも抱(かか)えやすくなります。そのためカウンセリングにも力を入れています。

3 仕事のやりがい、楽しさについて

赤ちゃんができて、無事生まれること。これほどうれしいことはありません。ホームページにも掲載(けいさい)していますが、病院にはたくさんの喜びの声が寄せられています。みなさんの思いに触(ふ)れるたびに胸が熱くなります。これからも医療の質の向上につとめて、多くの人々の望みを実現するように全力でサポートしていきたいです。



ある1日のスケジュール

4時	起床(きしょう)
	ウォーキング、院長室で勉強
6時半	朝食
7時	採卵(さいらん)
9時	カンファレンス(会議)
10時	外来診療
14時	休けい、昼食
15時	胚移植
16時	外来診療
18時半	外来終りよう、夕食
19時	インターネットで論文抄読(しょうどく)会、英語の勉強など
22時	就眠(しゅうみん)

? ソボクなギモン

◎心がけていることはありますか?

自分の体の状況(じょうきょう)を正しく理解して、治療に向き合ってもらうことが大切です。よく話し合い、きちんと説明をするようにしています

◎どんな人が向いていますか?

自然科学、理科、生物学が好きな人。他の人の痛みが分かる人です。

◎小学、中学生のころの好きな科目は?

理科。誠文堂新光社「子供の科学」の愛読者でした。望遠鏡を自分で作って、月や惑星(わくせい)を観測していました。

◎みなさんへメッセージ

子どもの数がだんだん減っています。年齢(ねんれい)が高くなるとだんだん妊娠(にんしん)がむずかしくなってきます。女性は自分の体のこと、妊娠についてきちんと理解して、何歳で子どもを産むかを見据(す)えて、人生の設計をしてほしいと願っています。